

情報共有と参加

東京大学 特任教授・建築学
松村 秀一
Shuichi Matsumura

「生き残れるか？」

昨秋、建築分野でのICT活用に関する展示会のパネルディスカッションに司会役で呼ばれた。聞けば、「生き残れるか、建築設計事務所」というタイトルで、パネラーは三つの建築設計事務所関連団体、すなわち（公社）日本建築家協会、（公社）日本建築士会連合会、（一社）日本建築士事務所協会連合会それぞれの会長と、ICT活用という観点から建築情報学会会長も加わった四名だという。「生き残れるか」というのは表現が過激に思えたので「生まれ変わるか」に変えていただいたが、主題は「生き残れる

か」という理解でお引き受けした。そのディスカッションの内容を紹介する紙幅はないが、ICT活用でなぜそういうテーマになるのかについて説明しておきたい。ICTとして、ここで主に想定されたのはBIMである。企画、設計、行政手続き、施工、維持管理などといった業務の段階ごとに、異なる書類や図面を整

える形で明確な分業体制が長年定着してきた建築界のあり様を完全に変えてしまう。BIMはそうした可能性を秘めている。建築物に関する三次元モデルに各種の情報を関連付けるBIMは、プロセスの初期段階から様々な立場の人が参加し、それらの人がモデルを手掛かりにコミュニケーションすることによ

て、情報としての建築の完成度が高まっていくプロセスを可能にし、従来の例えば設計、施工というプロセスに沿った役割分担自体を意味のないものにする可能性がある。そのようなBIMの普及によって将来大きく再編されるかもしれない建築プロジェクト・チームのなかで、設計事務所の立場はどのように確保されるのか、すなわちどのように「生き残れるか」という問いが発せられるのは理解できる。

組織再編の必然

この文脈でBIMが象徴しているのは、プロジェクト関係者間での情

報共有と、それによるプロジェクトの透明度の高さということになると思う。情報共有や透明度の高さといったプロジェクトの属性は、業務プロセスの前後関係に沿った従来の関係者間の役割分担や、業務実施体制における重層構造を無化し、これまである段階の意思決定に加わっていない関係者の参加を容易にする。つまり、情報共有と透明化は、建築に関する組織の抜本的な再編を駆動する力を持っている。

さて、本稿を書いている最中、北京冬季オリンピックのカーリング女子決勝の様子が聞こえてきたが、あの競技はそうした再編後の組織のあり方の一つを例示しているようにも思える。四人のチームは誰かが投げられる度に刻々と変化する氷の状態を見極め、各自が得た情報を大きな声で共有する。作戦も秘密のサインなど出すことはなく、敵にも聞こえるあけすけさで話し合う。そして、各人は同じように作戦を考え、同じように投げ、掃く。そこでの専門分化は見られず、どの段階も完全に全員参加型だ。



合言葉は「妄想から打ち上げまで」という(株)HandiHouse projectのメンバー集合 (写真提供: 株HandiHouse project)

新たなモデルの登場

「生き残れるか」という問いに返ろう。それは建築設計事務所に関するものであった。実は、その建築設計業界で、情報共有と参加ということを核に新たな業態モデルが同時に多発的に現れ始めている。

例えば、大手建築設計事務所や施工会社に勤めていた中田理恵さん、中田裕一さんたちが、「妄想から打ち上げまで」というコンセプト

の下、発注者も設計者も職人も全員参加型のプロセスをつくり上げることに重きを置いて立ち上げた株式会社HandiHouse project (写真)。

例えば、建築家の個人名を冠していた河野直さん、河野桃子さんたちが、「ともにつくる喜び」を合言葉に集まり、発注者もすべてのプロジェクトに参加するリノベーションプロジェクトの企画、設計、施工など

を手掛けるつみき設計施工社。例えば、アトリエ設計事務所と大手不動産会社に勤めた高橋寿太郎さんが、本来チームになるべき建築業界と不動産業界の間の大きな溝、情報共有が皆無の状態に驚き、その間を埋めて一つのクリエイティブなチームをつくるべく設立し、「建築と経営のあいだ研究所」などのユニークな活動も展開している創造系不動産株式会社。

他にも興味深い例は枚挙に暇がない。未来を切り拓く新しい業態は小さなところから現れるのが常だから、まだまだビジネスの規模としては大きくない例が多い。しかし、情報共有と参加という時代の流れに呼応する新たな業態のモデルは、明らかに存在する。そうなれば、追隨する者が加速度的に増えるのは時間の問題だ。

こうした若い世代の人たちによる新しいチャレンジのあり様からすると、どうやら問いの立て方としては、「生き残れるか」よりも「生まれ変わるか」の方が正解だったようだ。